

研究課題：先天性横隔膜ヘルニアの外科的治療方法に影響する出生後超音波所見の後ろ向き研究

1. 研究の目的

先天性横隔膜ヘルニアの患児においても横隔膜の欠損部を観察することができるかどうかを検討し、外科的治療方法に影響する出生後の超音波画像所見が何であるかを検討する。

2. 研究の方法

横隔膜は呼吸を司る大切な筋肉であります。先天性横隔膜ヘルニアは、その横隔膜の一部が欠損して、呼吸障害を生じる病気です。治療としては、外科的介入が必要です。欠損部を治療する方法として、横隔膜欠損部を直接縫合、パッチを用いて欠損部を縫合する2つの方法があります。また、欠損部にアプローチする方法として胸腔鏡を用いる場合と、開腹手術を行う場合の2つの方法があります。しかし、実際の手術中の欠損部の大きさなどによって開始した手術方法を途中で変更する必要があることがあります。近年、超音波で横隔膜自体を観察する手法が報告されていることから、先天性横隔膜ヘルニアの患児においても横隔膜の欠損部を観察することができるかどうかを検討し、外科的治療方法に影響する出生後の超音波画像所見が何であるかを検討します。

3. 研究期間

研究期間は2000年9月から2018年6月まで先天性横隔膜ヘルニアを認めた患者の出生後超音波所見をまとめる。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

これらの患者の外科的手術方法を調べ、それに関連する所見が何であるかを検討する。画像検査結果、カルテの記載から、病気に関する事柄（検査所見、治療方法）を調べまとめます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この試験で得られたデータが本試験の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

実施責任者 放射線科 医長 細川 崇洋

実施分担者	放射線科	副病院長	小熊 栄二
	放射線科	部長	田波 穰
	放射線科	医長	佐藤 裕美子

個人情報分担管理者氏名：田波 穰

研究施設名：埼玉県立小児医療センター 放射線科
連絡先：〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心 1-2
電話：048-601-2200

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2018年12月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）